私は今年二月に宮城県仙台市で開催された「第五十八回全国家の光大会」記事活用体験発表において「いつも心を豊作に」で志村源太郎記念賞（最優秀賞）を戴きました。これはもとえに日大卒さらなる教職免許による高校で教鞭を執り、また多くの人との出会いの賜と感謝しています。

その内容は別項の通りです。

平成元年度　文理学部卒業
中村　巴

『いつも心を豊作に』
ＪＡ菊池女性部旭志支部
中村　巴

農村の嫁はただ働くばかりで、涙をのみながら、暗いトンネルの中を這うようにして生きていた女性の前途に、明るい外の光が差し込みます。その光のある方向に向かって、走り出す女性の手には、足元を照らす提灯のように家庭雑誌「家の光」があったのです。

私と『家の光』の出会いは、熊本・阿蘇外輪山の麓にある旧旭志村、牛が人口の5倍以上もいる大畜産地帯に嫁いでからです。つれあいの母が『家の光』をよく見ていたのを知っていましたが、そのころの私は稼業の畜産業ではなく、看護師として勤め、その後、高校で福祉の教師として日々仕事におわれ、手にして見たことはありませんでした。8年前教師生活にピリオドを打ち、残りの人生をつれあいと共に頑張ろうと、肥育牛180頭、水稲5ｈａ、を中心としたバリバリの専業農家になりました。

それまで地域とのかかわりがなかった私は、まずは肥育女性部に加入し、その後味噌作りがしたいからとＪＡ女性部に加入、3年後に副部長を受けさせていただいた時のことです。生活課に立ち寄る機会が多くなり、カウンターの『家の光』に、母を想い出し、開いてみると、バラエティーに富んだ内容が満載。すぐその場で購読を申し込みました。しかし周りからは、『家の光』とりよるばってん袋も開けんで其のまま積み重ねとるたい」「忙しくて読む暇んなか」などの声か多く聞かれました。なぜ？

記事を読んでもったいない！　記事を読んで楽しさを実感する人を一人でも多く増やしたいと事務局と相談、女性部の役員会や全体学習会で記事活用の機会を多く取り入れましたが、継続的な愛読運動にはなりませんでした。やはり単発的な活用ではなく日々の活動に取り入れなくてはとの思いから、2年目に「家の光クラブ」を立ち上げることになりました。

年度初めのサークル活動の募集のチラシで集まったのは6名。無理なくできるように、月に1回の開催にしA持ち寄った『家の光』から気になった記事を発表していきます。そうすると、見過ごしていた記事などにも興味がわいてきて、この歳になって多くのことを学ぶ機会になりました。

活動内容は、読書会・ゴキブリ団子・紫蘇ジュース・絵手紙・手芸・時には『ちゃぐりん』を活用して小学校調理クラブの指導者として出向いたりとしました。

そのなかでも、最大のヒット作品「てぬぐい帽子」。

これはクラブが発端となり、女性部の全体学習会で挑戦する事に。役員さんたちが事前に練習をして指導者となり、70名近くになった参加者が一斉にワイワイ、チクチク帽子作り。見てください。この笑顔！　その後牛舎や田畑、直売所、料理教室、また小学校の調理クラブに出かけた際はなんと小学生まで、地域のあちらこちらで見かけるようになりました。こんなに流行ると嬉しくて仕方ありませんでした。

大事なのは、身近にあり活用しやすい『家の光』から気軽に活動すること。そしてそれを私達だけの活動で終わらせないようにする事。クラブが終わると、ＪＡの広報誌や事務局のＳＮＳに必ず載せていただきました。そうすると「どうやって作るの？」「私もやってみたい！」と嬉しい反応が沢山聞こえ始め、2年目は10人に。楽しさが伝わると仲間が増えることを実感、十人十色とはよく言ったもので、さらに目線が広がりました。

同じ頃、私の集落で、高齢者を対象としたサロンが始まり、夏場などには「熱中症にご用心！」をテーマにして『家の光』の記事をそのまま大きな紙に書き写しての説明。目で見るとわかりやすいと大変好評でした。このようにサロンに使える記事が多いのも家の光の特徴だと思います。もちろん宣伝もしっかりしましたよ。すると「知っとるたい、家の光はよ～みよったもんな。また、読んでみようか」との声！　さすが　大先輩！

また菊池女性部では、農作業の暑さしのぎにもなるからと、毎年夏に『サマーレディススクール＆家の光大会』が開かれています。女性部自らがチケットを販売したお金で、なだかい講師を招き、誰でも参加できることから、800人近くはいる会場は、いつも満員御礼。ロビーには各支部の『家の光』を活用した作品が並び、ＰＲする絶好の機会です。昨年の講師はなんと武田鉄矢さん、講演の前に「家の光クラブ」の活動発表をさせて頂きました。あまりに大きな舞台で、大変緊張しましたが、その後の反響がすごく、管内の至る所で「自分たちの支部でも家の光クラブを始めたい」と声をかけてもらい嬉しさと達成感であふれ、やはりＰＲする事は大事なのだと感じました。

そして、「家の光クラブ」以外に菊池女性部はサークル活動が大変活発に行われています。

昨年、上半期だけでも27のサークル、参加者はなんと3000人を超えています。その中で私も日舞教室の講師として、お声がかかり、昨年から新たな教室としてスタートしました。

集落の解散等で部員が減少するその一方で、サークルを目的に女性部に入る方が増え始め、私のいる旭志支部においては昨年、右肩下がりをたどるばかりの部員数についに歯止めがかかったのです。とっても嬉しい事です！　サークルをきっかけに女性部を理解し、意欲的に活動に参加されている皆さんを見ていると新しい形の女性部の始まりのようです。さらに女性部においては『家の光』の購読者も増え始めています。

私が講師を務める日舞教室でも休憩時間に読書会を取り入れるようにしました。

これを全部のサークル活動に取り入れてもらう事が今の目標です。なんとなく女性部に入って、なんとなく『家の光』をとる、ある意味他人まかせの形から、目的を持って入る女性部、読みたいから買う『家の光』に変わっていけば、『家の光』が、女性部の道標となり、もっと団結力が強まるのではないでしょうか。

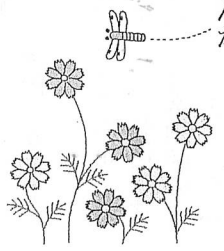
『家の光』が発刊されたころの農村女性は、一日中畳の上にあがることなく土間での生活、夜は夜なべで本を手にすることもできず働きづくめだったなか、月に一回集まって『家の光』を読む会が起こり、ようやく女性が、外に出る機会が出来たと聞きました。

ちなみにこのような転換期に私は産声をあげたのです。母の苦労をしみじみと感じました。

読む会がおこったことにより、交流を通して女性に光を与え、力と知恵、協同精神をもたらし、女性の生活の改善へとつながっていったということです。

現代の「読む会」である「家の光クラブ」はまだ歩き始めたばかりのクラブですが、その歴史を土台にして、一人ではなかなか気付かないことでも、皆で本を読みあいドキドキ、わくわくの気持ちを地域の皆さんに伝えたい。私達がその発信源になりたいと思います。そのことで、地域が再び活気づき、一人一人が「幸せ」になることが私達の願いです。

皆さん『家の光』で人生をもっともっと豊かにして家庭に沢山の光を取り入れ、「いつも心を豊作に」していきませんか。



近況報告

欠席者の返信はがきより

浦川　繁
新年会楽しゅうございました。翌日二四日天草に帰る時熊本市内の積雪はありませんでしたが、天草に入ると約26㎝程の大雪でした。大寒の積雪は五〇年振りとかで農業にも寒害雪害がでました。例年総会時はミカン出荷期で出席できません。よろしくお伝えください

板垣　泰人
今回は欠席させて頂きます。今年度（二八年度）まで現役のため仕事が忙しくてすみません。

塩屋　勉
足腰が弱り、通院中です。欠席させて下さい。皆さんによろしく。

中嶋　輝雄
家内逝去（二月二一日）その頃までは残務整理で出席不可と思います。よろしくお願いいたします。

鶴田　耕治
申し訳ありません。所属団体の理事会と重なりまして、出席できません。私事ですが、体調は良好です。糖尿病は、米、麦食品を極力控えてＡＩｃは6～6，1程度です。執筆はなかなか進みませんがグランドゴルフを週2で遊んでいます。役員の方に敬意と感謝です。

田口　正寿
昨年一二月から熊日朝刊、読者文芸欄（毎月曜日）二二回連載中です。「川柳はグローバル」お読みいただければ嬉しいです。

赤澤　晴美
遅くなり申し訳ありません。なかなか出席できなくて申し訳なく思って思っています。今回、日大通教の大学卒の資格の御蔭で福祉系の国家試験受験資格を得ることができ、又パスする事ができました　感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

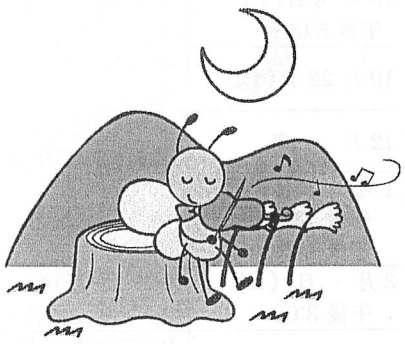
氏森　哲
現在は就活しています。当日はアルバイトのシフトの都合がつきそうもないので残念です

谷口　洋子
御世話になります。皆さまにいろいろお世話になり七三歳となり心身ともに衰えて困っています。皆さまのご活躍を願っています。

寺田　いく子
御世話様です。参加できませんが盛会をお祈りしております。

高宮　優香
せっかくのお誘いですが申し訳ありませんが欠席します。

山口登美子
他の用件と重なっています。失礼ばかりですみません。



会報は校友を繋ぐ機関紙です。多くの皆様の投稿をお待ちいたします。
送り先
〒861・1203
菊池市旭志尾足933・2
本田　みよ子